

大阪・國府遺跡

- |       |  |
|-------|--|
| 所在地   | 大阪府藤井寺市惣社一丁目五三五 <small>丁</small> 五三八 <small>字</small> 高岸 |
| 調査期間  | 一九七八年(昭53)十一月～一九七九年(昭54)五月                               |
| 発掘機関  | 大阪府教育委員会   |
| 調査担当者 | 佐久間貴士  |
| 遺跡の種類 | 未確定  |

6 遺跡の年代 繩文・弥生・古墳・奈良・平安・鎌倉・江戸時代  
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

国府遺跡は河内国の国府に比定されているが、遺跡自体は旧石器時代から江戸時代までの複合遺跡である。国府遺跡の調査は一九一七年喜田貞吉氏による大型で粗雑な石器の報告以後、京都大学考古学教室の発掘など何度かの発掘が実施され、一九七〇年から大阪府教育委員会による発掘調査が毎年継続して行なわれている。

国衙推定地は国府段丘上にのっているが、本調査地は段丘の北側下にあり、国衙推定地西方四〇〇mに位置する。調査地の北に接する東西に走る道路が大津道と推定されている。この道と平行して奈良時代の大溝が二〇〇mほど走っていることがこれまでの調査で確

遺構・遺物は縄文時代から江戸時代まで確認されているが、こ



り、三次調査を一九八〇年の六月に終了しているので、今後の検討課題としたい。

では木簡と同時期の十一世紀後半から十三世紀初頭にかけてのべる。遺構は瓦葺礎石建物二棟、掘立柱建物三棟、井戸三基、池三カ所、小鍛冶炉三カ所、杭列、祭祀遺構、土壙、溝、礫群等が確認されてゐる。遺物も当該時期に限ると、瓦器、土師器、須恵質陶器、中国製の白磁・青磁・青白磁、鉄斧、鉄釘、銅容器、金張り銅帶金具、輔羽口、鉄滓、瓦、木製神像、剣型木製品、船型木製品、漆塗椀、漆塗箸状木製品、木球、曲物、銅錢など多量に出土している。

当調査地点の遺構の性格は、その種類や遺物などからみて一般の集落とは考え難い。国府に近いところから官衙の施設、或は荘所、屋敷地など様々に解釈できるところである。なお今回の調査はこの

課題としていた。  
呪札(1)～(3)は太高台  
の瓦器の出土する池3  
の覆土より出土。木簡  
(4)・(5)は一番新しい池  
1の底面近くから出土  
した。

8 木簡の釈文・内容

- (1) 「天疋□□〔歳徳カ〕」 (184) × (49) × 3 081

(2) 「急急如律」 × (84) × (25) × 3 081

(3) × □□ (梵字) (43) × (17) × 3.5 081

(4) 「早租米代納」 × (62) × (17) × 7 019

・「承安二年」 ×

(5) × □粧 一一□ × (83) × (23) × 6 081

(1)～(3)は同一地点からの出土し、同じ材質の木板に墨書きされている  
もので、本来同一の木板である。(1)の上端は曲物の底かと思われる  
ような丸い面取りがある。(1)の疋は岡であろう。この呪文は兵庫県  
に類例がある。(2)は律の下に令の字がくると思われるが確認できな  
かった。十一世紀後半のものと思われる。

(4)は長方形の材の上部を三角に削り出し、下方はやや拡がってい  
る。裏面の承安二年は、一一七二年である。

(5)は、上部を欠損し、左半部・下部は文字を半截して切りとられ  
ている。

なお积文については岸俊男先生をはじめ、佐藤信・清田善樹の両  
氏の御教示をえた。

9 関係文献

佐久間貴士・阪田  
育功・森井貞雄

『国府遺跡発掘調査概要 X』（大阪府教

一九八〇年  
(佐久間貴士)

